

修士論文（要旨）

2023年1月

ペット飼育が中国の空巢老人の孤独感に及ぼす影響

指導 杉澤 秀博 教授

国際学術研究科
国際学術専攻
老年学学位プログラム
221J5003
許 嘉佩

Master' s Thesis(Abstract)
January 2023

The Influence of pet feeding on loneliness among life of empty-nesters of China

Jiapei Xu

221J5003

Master of Arts Program in Gerontology

Master' s Program in International Studies

International Graduate School of Advanced Studies

J.F. Oberlin University

Thesis Supervisor: Hidehiro Sugisawa

目次

第1章. 緒言.....	1
1.1 研究の背景.....	1
1.2 先行研究の到達点と課題.....	2
1.3 研究の目的と仮説.....	3
第2章 研究方法.....	4
2.1 対象.....	4
2.2 データ収集方法.....	4
2.3 測定項目.....	4
2.4 統計解析法.....	7
2.5 倫理的配慮.....	8
第3章 結果.....	8
3.1 分析対象者の属性.....	8
3.2 ペット飼育の有無が孤独感に与える影響.....	8
3.3 ペットの種類とペットのかかわりが孤独感に与える影響.....	9
第4章 考察.....	9

参考文献

資料

第1章 緒言

1.1 研究の背景

中国では、高齢化社会の進展、急速な経済発展による人口移動、少子化・核家族化等により、家族の小規模化が急激に進んでいる。それに伴い、「空巢」と呼ばれる高齢者が2020年には1億1800万人に達しており、2030年には2億人を超えると予想されている。「空巢」とは、子どもが成長して親元を離れ、親だけが家に残っている状態の世帯、また、そもそも子どもがいない高齢者の世帯のことである。

中国では、「養兒防老（老後のために息子を育てる）」「多子多福（子供が多いほど幸福である）」という伝統的な考え方の影響を受けているため、高齢者は子供と一緒に住みたいという気持ちが高い。そのため、都市部にも農村部にも、孤独感は空巢老人にとって大きな心理的問題となっている。

中国では現在、ペットブームが起こっており、ペット飼育者は、2020年と比べて2021年には8.7%増の6,844万人になっている。その中で高齢者の割合は7.5%であった。このようにペットを飼育する高齢者が増加する中で、空巢老人の孤独感を緩和する手段の一つとして、ペット飼育は効果的であるか否かというのが議論されるようになった。

1.2 先行研究の到達点と課題

先行研究には以下のような限界がある。第1に、孤独感は重要な心理的問題を評価する指標であるが、空巢老人におけるペット飼育の影響については、孤独感に着目した研究が少ない。第2に、飼育するペットの種類によって空巢老人の孤独感に与える影響が異なる可能性があるが、影響の違いを分析した研究はほとんどない。第3には、ペットの飼育が孤独感に影響する条件として、愛着などの心理的要因が重要であると考えられるが、このような指標を分析モデルに位置付けた研究がほとんどない。第4には、社会的支援が乏しい場合にのみペットを飼うことが孤独感に影響するのか、社会的支援の多寡に関係なくペットが孤独感に影響するのか、については研究がほとんどない。

1.3 研究の目的と仮説

本研究では、中国の60歳以上の空巢老人を対象として、ペットの飼育の有無、ペットとのかかわりの内容が孤独感に与える影響を分析する。本研究の仮説は以下の4つであった。仮説1は、ペット飼育の有無によって孤独感に有意な差がある。仮説2は、ペット

の飼育は社会的支援の少ない人の方が社会的支援の多い人よりも孤独感の低下に効果がある。仮説 3 は犬を飼っている人は猫を飼っている人よりも孤独感が低い。仮説 4 は、ペットとかかわりが強いほど孤独感が低い。

第 2 章 研究方法

2.1 調査対象

本調査は、中国河南省洛陽市に居住する 60 歳以上の空巢老人を対象とした。対象者の抽出は研究者の個人的なネットワークを利用して行い、結果として 273 人の調査対象者を抽出した。

2.2 データ収集方法

調査対象者に対して「問巻星 (中国のアンケート作成プラットフォーム)」を用いた web 調査を実施した。調査期間は 2022 年 11 月 15 日～30 日であった。回答は 273 人から得られ、回答率は 100%であった。

2.3 測定項目

従属変数として孤独感を用いた。独立変数として、(1)ペットの飼育の有無、(2) ペットとの関係性：①ペット飼育の数、②ペットの種類、③ペットの飼育年数、④ペットとの接触度、⑤ペットの世話の頻度、⑥ペットの世話に要する時間、⑦ペットへの愛着、(3) 社会的支援、を用いた。調整変数には、①性別、②年齢、③就学年数、④同居者の有無、⑤就業の有無、⑥月収、⑦健康度自己評価、を用いた。

2.4 分析方法

仮説 1 については、従属変数として孤独感を、独立変数としてペットの有無、調整変数をモデルに投入し、重回帰分析を行なった。仮説 2 については、仮説 1 を検証したモデルに社会的支援とペットの有無の交互作用項を投入し、交互作用項が有意か否かを評価した。仮説 3 については、ペットを飼っている人のみを取り上げ、従属変数として孤独感を、独立変数としてペットの種類 (犬か、ネコか)、調整変数を投入し、重回帰分析を行った。仮説 4 については、仮説 3 のモデルにペットとのかかわりの変数を投入し、重回帰分析を行った。分析には統計ソフト SPSS27.0 for Mac を用いた。

2.5 倫理的配慮

本研究は、桜美林大学研究倫理委員会にて承認済み（承認番号 22026）である。

第3章 結果

ペット飼育の有無は孤独感に有意な影響はなく、仮説1は支持されなかった。ペットの飼育と社会的支援との交互作用項が有意であったものの、その結果は社会的支援が少ない人の孤独感の低下をペットの飼育が緩和することを意味しているわけではなく、仮説2は支持されなかった。犬か、猫かによって孤独感に有意な差はなく、仮説3が支持されなかった。ペットとのかかわりに関する変数はいずれも孤独感に有意な影響はなく、仮説4が支持されなかった。

第4章 考察

本研究では、中国の60歳以上の空巢老人を対象として、ペットの飼育の有無、ペットとのかかわりの内容が孤独感に与える影響を明らかにすることを目的とした。仮説1、すなわち、ペット飼育の有無による孤独感に有意な差があるという仮説については、それを支持する結果が得られなかった。空巢老人を対象とした既存研究では、ペットを飼育している高齢者はペットがいない高齢者と比較して生活満足度が高いことが明らかにされている。本研究では、孤独感への影響を分析していることから、この指標の違いによってペットの飼育の影響が有意でなかった可能性がある。本研究の結果の妥当性を確認するための追試が必要である。第2の仮説、すなわちペットの飼育が社会的支援の少ない高齢者で特に孤独感の低減に効果があるという仮説についても、本研究では、これを支持する結果を得ることができなかった。本研究では、ペットを飼育している空巢高齢者の中で、社会的支援が低い人では高い人と比較すると孤独感が高い値を示しており、仮説とは逆の結果であった。これについては、社会的支援が低く、孤独感が高い空巢高齢者では、それを緩和するためにペットを飼育している、すなわち、孤独感が原因でペットの飼育が結果であるという見方ができると思われる。

第3の仮説、すなわち犬を飼っている人は猫を飼っている人よりも孤独感が低いという仮説、さらに、仮説4、すなわちペットとのかかわりが強いほど孤独感が低いという仮説についても、それぞれそれを支持する結果が得られなかった。ペットの飼育については、それが心理面でプラスに作用するだけでなく、餌やり、犬の場合には散歩など飼育するこ

との負担が少なくない。本研究では、ペットの世話、ペットの世話を要する時間も分析モデルに入れており、そのことが心理的な負担に影響している可能性があり、孤独感の解消のプラス面と相殺されている可能性もある。

本研究の限界と今後の課題については以下の通りである。第1に、本研究の分析対象者は執筆者の個人的なネットワークを活用して抽出された人であることから、分析対象者は空巢老人の代表性ある集団とはいえない。代表性の確保された分析対象者を対象とした追試を行うことが必要である。第2に、本研究は横断的研究であり、ペット飼育の有無と孤独感に関する因果関係をより確実に検証するため、縦断的研究を行うことが必要である。

謝辞

本研究の趣旨にご理解いただき、調査にご協力いただきました中国河南省洛陽市に居住する調査対象者の皆様にお礼を申し上げます。本論文の作成にご指導、ご教授くださいました桜美林大学大学院老年学学位プログラムの杉澤秀博先生、中谷陽明先生、新野直明先生に心から感謝を申し上げます。

参考文献

- 1) 周冉冉：中華人民共和國民政部，全國政協委員焦斌龍：讓空巢老人有所依，有所樂，有所為。中國社會報 (2022). (<https://www.mca.gov.cn/article/xw/mtbd/202203/20220300040169.shtml>) (2022. 11. 5 アクセス).
- 2) Pas, S. V. D., Tilburg, T. V., & Knipscheer, K: Changes of contact and support within intergenerational relationships in the Netherlands: A cohort and time-sequential perspective. *Advances in Life Course Research*, 12, 243-274 (2007).
- 3) Wenger, G. C., Dykstra, P. A., Melkas, T., & Knipscheer, K. C. P. M.: Social Embeddedness and large-life parenthood: Community activity, close ties and support networks. *Journal of Family Issues*, 28(11): 1419-1456 (2007).
- 4) 李鶴：現代家庭的倒金字塔模式一析” 421” 家庭面臨的困境。語文學刊，(23)：64-65 (2012)。
- 5) 李德明，陳天勇，吳鎮雲等：城市空巢與非空巢老人生活和心理狀況的比較。中國老年醫學雜誌，26(3)：294-296 (2006)。
- 6) 陽芳，付偉，劉曉虹：城市空巢老人負性心理及其影響因素研究進展。護理學雜誌，27(1)：93-95 (2012)。
- 7) 張玉梅，朱文娟：山東省農村老人孤獨感影響因素分析。農村經濟與科技，30(11)：219-223 (2019)。
- 8) 鄭日昌，傅納：“空巢家庭”與寵物伴侶。中老年保健，(8)：25-28 (2004)。
- 9) 傅納，鄭日昌：寵物對空巢父母身心健康的影響。中國心理衛生雜誌，17(8)：569-571 (2003)。
- 10) 鄭日昌，傅納：寵物犬對空巢父母身心健康的影響。心理科學，28(6)：1297-1300 (2005)。
- 11) 李沫：飼養寵物犬對空巢老人身心健康的影響。大連醫科大學碩士研究生學位論文 (2009)。
- 12) 趙卓娜：社會建設視角下的“養寵”現象研究-基於呼和浩特市Y社區“养犬”狀況的調查。內蒙古師範大學碩士研究生學位論文 (2018)。
- 13) 日本健康心理學會編：健康心理學事典。實務教育出版：p102 (1997)。

- 14) 潘露, 曾慧, 陳嘉: 老年人孤独感对健康的影响及干予研究進展. 中国老年学雜誌, 35(4): 1143-1146 (2015).
- 15) 閻志民, 李丹, 趙宇哈, 余林, 陽遜, 朱水容, 王平: 日益孤独的中国老年人: 一項橫断歴史研究. 心理学進展, 22(7): 1084-1981 (2014).
- 16) 菊池和美, 長田久雄: 地域コミュニティにおける高齢者の「犬の散歩」をきっかけとした交流. 応用老年学, 7(1): 33-41 (2013).
- 17) 李俞熹: 老年人孤独感与寵物依恋的关系研究. 重慶師範大学碩士研究生學位論文 (2020).
- 18) 董亭月: 社会支持对中国老年人孤独感的影响研究-基于2014年中国老年社会追蹤調查. 国家統計局統計科学研究所. 調研世界, (8): 3-9 (2017).
- 19) Duvall Antonacopoulos, N.M. & Pychyl, T.A.: An examination of the potential role of pet ownership, human social support and pet attachment in the psychological health of individuals living alone. *Anthrozoös*, 23(1): 37-54 (2010).
- 20) 内田恵理, 三好陽子: 独居高齢者にペットがもたらす心理的効果. 醫學と生物學, 152(7): 264-270 (2008).
- 21) 中国国家统计局: 国勢調査のデータ. <http://www.stats.gov.cn/> (2022. 11. 5 アクセス)
- 22) Russell, D., Peplau, L.A., & Cutrona, C.E.: The revised UCLA loneliness scale: Concurrent and discriminant validity evidence. *Journal of Personality and Social Psychology*. 39(3): 472-480 (1980).
- 23) 舛田ゆづり, 田高悦子, 臺有桂: 高齢者における日本語版 UCLA 孤独感尺度 (第3版) の開発とその信頼性・妥当性の検討. 日本地域看護学会誌, 15(1): 25-32 (2012).
- 24) Johnson, T.P., Garrity, T.F. & Stallones, L.: Psychometric evaluation of the Lexington attachment to pets scale (LAPS). *Anthrozoös*, 5: 160-175 (1992).
- 25) 長田久雄, 桜井富士朗: 「人と動物の関係」の学び方—ヒューマン・アニマル・ボンド研究って何だろう. インターズ: p176-179 (2003)
- 26) Dahlem, N.W., Zimet, G.D., & Walker, R.R.: The Multidimensional Scale of

- Perceived Social Support: A confirmation study. *Journal of Clinical Psychology*, 47(6):756-761 (1991).
- 27) Zimet, G.D., Powell, S. S., Farley, G. K., et al.: Psychometric characteristics of the multidimensional scale of perceived social support. *Journal of Personality Assess*, 55(3-4):610-617 (1990).
- 28) Zimet, G.D., Dahlem, N.W., Zimet, S.G., et al.: The multidimensional scale of perceived social support. *Journal of Personality Assessment*, 52(1):30-41 (1988).
- 29) 古谷野亘, 柴田博, 中里克治, 他: 地域老人における活動能力の測定—老研式活動能力指標の開発—. 日本公衆衛生雑誌, 34(3):109-114 (1987).
- 30) Phillipou, A., Tan, E.J., Toh, W.L., et al: Pet ownership and mental health during COVID-19 lockdown. *Australian Veterinary Journal*, 99(10): 423-426 (2021).